

土砂防だより



晩秋の実り(富士宮市)

- 平成22年土砂災害の発生状況 2
- 台風9号の被害状況と対応 3
- 台風9号による小山町における土砂災害等の概要 4
- 土砂災害を防止し、地域を活性化するための緊急提言
 (社)全国治水砂防協会 6
- 市町長の岩手・宮城県砂防事業等の視察 8
- 直轄砂防事業の紹介(富士山の砂防事業) 10
- インフォメーション 11
- お知らせ 12



平成22年 土砂災害の発生状況 台風9号の被害状況と対応



全国治水砂防協会静岡県支部

土砂災害の発生状況

土砂災害は、降雨や地震などにより突然発生し、尊い生命や貴重な財産を一瞬にして奪い、地域に深刻な被害をもたらします。

土砂災害は全国各地で毎年発生し、過去10年間で平均約1,000件、県内においても年平均約40件も発生しています。

平成22年には、県内で54件(9月20日現在)の土砂災害が発生していますが、住民の人的被害はありませんでした。がけ崩れ33件の内、9件で既設の擁壁等により土砂や倒木を食い止め、人家への被害を未然に防止し、地域への安全に貢献しました。

なお、9月8日に小山町を中心に襲った台風9号による土砂災害は40件となっております。

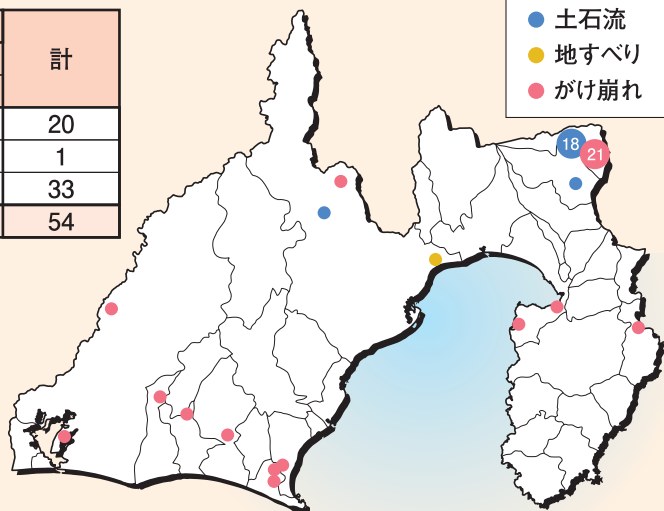
平成22年 県内の土砂災害

(H22.9.20現在)

土砂災害発生位置図

種別	発生日と気象状況					計
	～3月31日	5月24日	6月12日～23日	8月8日～12日	9月8日	
	豪雨	豪雨	梅雨前線豪雨	豪雨	台風9号	
土石流	1	0	0	0	19	20
地すべり	0	0	1	0	0	1
がけ崩れ	3	2	5	2	21	33
計	4	2	6	2	40	54

- 〈凡例〉
- 土石流
 - 地すべり
 - がけ崩れ



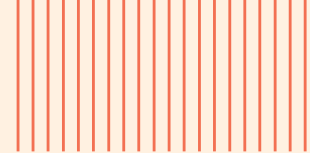
がけ崩れにより人家半壊
(磐田市下野部)



がけ崩れから人家を守った急傾斜施設(御前崎市上朝比奈)



地すべりにより
人家一部損壊
(静岡市清水区由比)

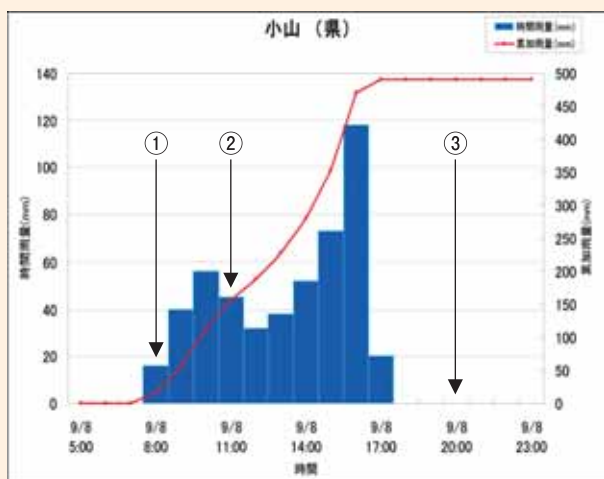
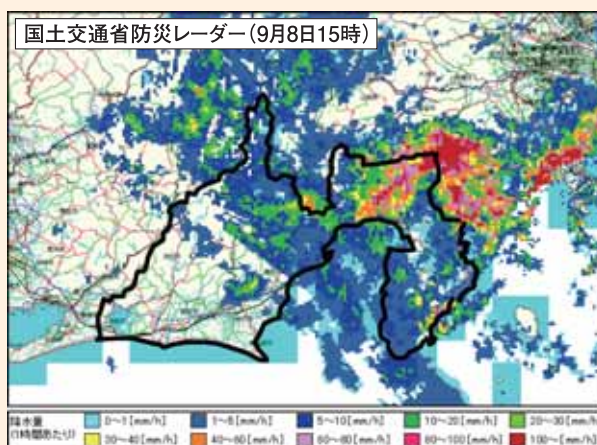


1. 気象概況

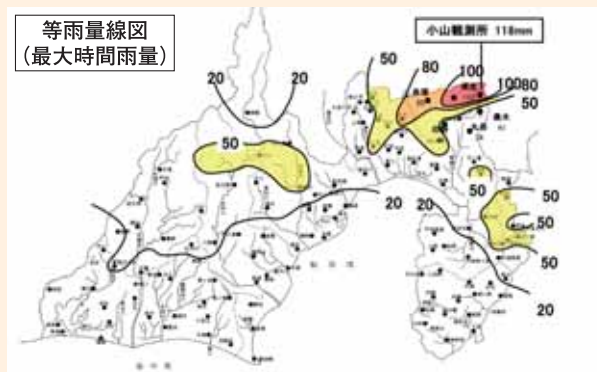
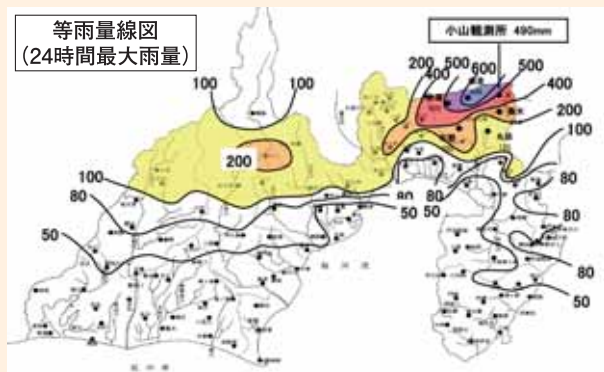
台風9号は、対馬海峡から山陰沖を東北東から東へ進み、8日11時過ぎに福井県敦賀市付近に上陸した。その後、中部地方を南東に進み、同日15時に静岡県で熱帯低気圧に変わり夜関東の東海上に抜けた。

静岡県では、台風の接近により8日7時頃から雨雲が発達し、小山町付近で10時に1時間降水量が解析雨量でおよそ110mm、16時にもおよそ120mmの記録的な大雨を観測した。

(「平成22年台風第9号に関する静岡県気象速報(9月10日静岡地方気象台)」より引用)



①大雨警報 発表8:32 ②土砂災害警戒情報 発表10:35 ③土砂災害警戒情報 解除19:20



2. 避難状況等

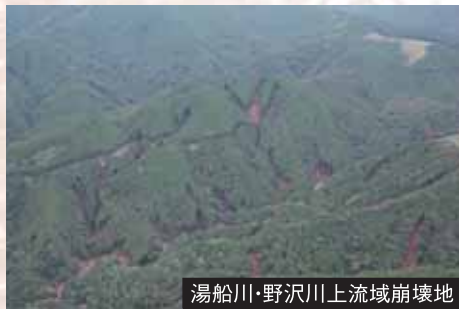
- (1)避難指示
 - ・御殿場市荻原 10世帯 (8日 12:00) → 解除 (8日 17:20)
- (2)避難勧告
 - ・小山町藤曲茅沼 20世帯 (8日 19:46) → 解除 (8日 19:46)
 - 藤曲坂下 5世帯 (8日 13:40) → 解除 (8日 19:47)
 - 生土 約50世帯 (8日 14:10) → 解除 (8日 19:48)
 - 須川わに塚有 約20世帯 (8日 14:48) → 解除 (8日 19:47)
 - 柳島 66世帯 (8日 15:45) → 解除 (17日 15:12)

3. 被害状況

- (1)人的被害 小山町1名 (鮎川沿いの町道<小山町役場裏>取材中に決壊した道路に転落したフジテレビ報道クルー) 病院搬送済み (意識不明の重体)
- (2)住家等被害
 - 全壊: 住家6棟 (小山町)
 - 大規模半壊: 住家7棟 (小山町)
 - 半壊: 住家18棟 (小山町)
 - 床上浸水: 1棟 (御殿場市)、14棟 (小山町) 計15棟
 - 床下浸水: 住家9棟 (富士宮市)、10棟 (御殿場市)、94棟 (小山町)、1棟 (富士市)、1棟 (長泉町) 計115棟
 - その他非住家被害 16棟 (小山町)、3棟 (御殿場市)、4棟 (富士宮市) 計23棟

台風9号による小山町における

9月8日に静岡県を襲った台風9号は、県東部に記録的な大雨をもたらし、小山町を中心に多大な被害を発生させ、湯船地区や柳島地区を中心に土石流やがけ崩れが多数発生しました。当日は、10時35分に小山町へ土砂災害警戒情報派遣要請を行うなど、迅速に厳戒体制をとられたことにより、人家等に多大な被害をもたらしたものの、早め



湯船川・野沢川上流域崩壊地



上野川



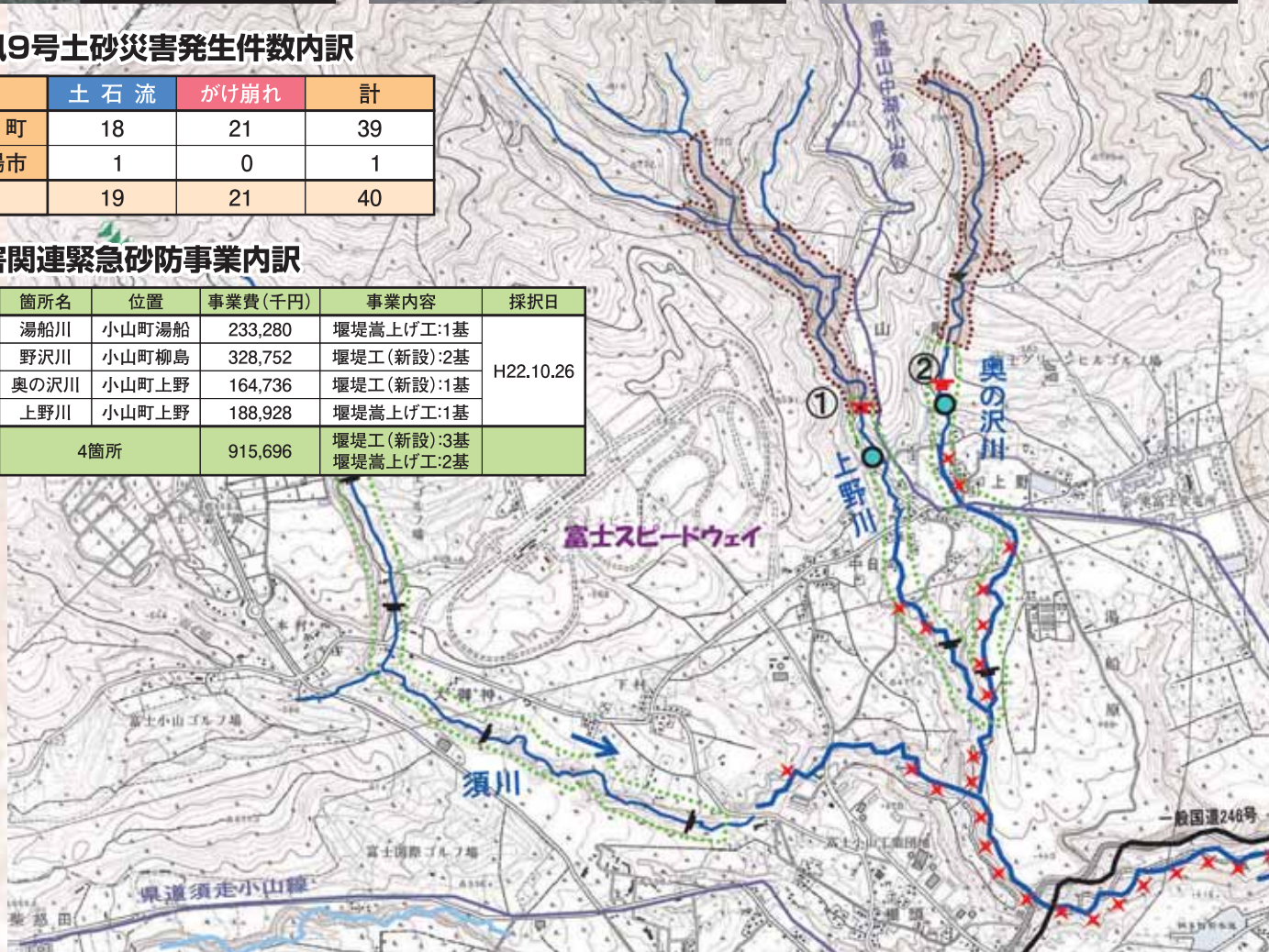
奥の沢川

台風9号土砂災害発生件数内訳

	土石流	がけ崩れ	計
小山町	18	21	39
御殿場市	1	0	1
計	19	21	40

災害関連緊急砂防事業内訳

区分	箇所名	位置	事業費(千円)	事業内容	採択日
砂防	湯船川	小山町湯船	233,280	堰堤嵩上げ工:1基	H22.10.26
	野沢川	小山町柳島	328,752	堰堤工(新設):2基	
	奥の沢川	小山町上野	164,736	堰堤工(新設):1基	
	上野川	小山町上野	188,928	堰堤嵩上げ工:1基	
計	4箇所		915,696	堰堤工(新設):3基 堰堤嵩上げ工:2基	



野沢川の土石流出状況













湯船川の崩壊地

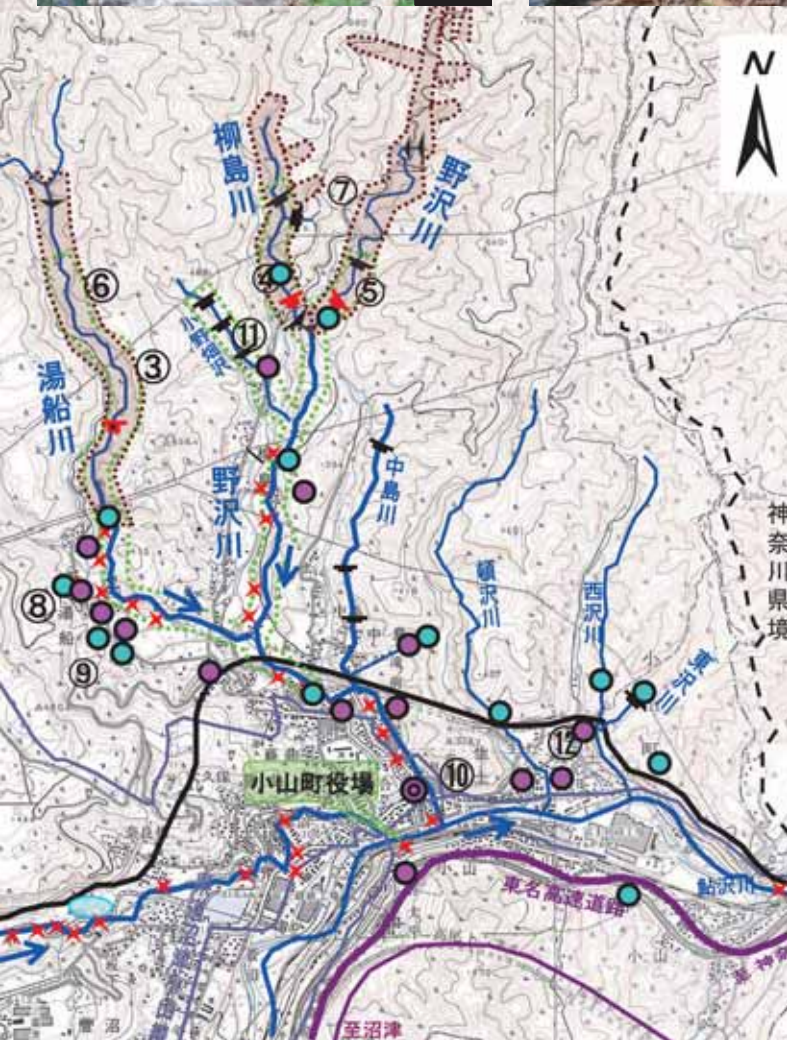


柳島川の崩壊地

土砂災害等の概要

した。この台風による土砂災害は、全体で40件（うち小山町39件）発生し、小山町の報を発表、11時07分に小山町役場が災害対策本部を設置、15時10分には、自衛隊への避難勧告の発表や住民の自主避難が功を奏し、人的被害が発生しませんでした。

〈凡 例〉	
	土石流災害
	がけ崩れ災害
	既設砂防堰堤
	災関緊急砂防(新設)
	災関緊急砂防(嵩上げ)
	急傾斜施設災
	治山谷止
	護岸被災箇所
	崩壊地
	砂防指定地



治山・砂防事業推進議員連盟が砂防事業を視察

10月5日、水と豊かな生活環境の創造と安心して暮らせる社会基盤の整備を目標に、砂防事業の推進を目指す「静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟」が、台風9号により土砂災害等が発生した小山町柳島・湯船地区等の被災地の現地視察をおこないました。

今回の視察には、会員68名のうち13名が参加し、孤立した柳島地区で行われている仮橋設置作業や流木により被災した湯船沢橋を視察するとともに、沼津土木事務所より土木施設災害や災害関連緊急砂防事業を予定している溪流についての説明を受けました。

良い天候に恵まれたこともあり、現場では精力的に状況確認をしていただき、被災原因や復旧方針について活発に意見等が出され、災害復旧事業の速やかな実施や再度災害防止の必要性について確認していただき、土砂災害対策事業の重要性について再認識していただきました。

出席者名簿

名前	党派
池谷 晴一	平成21
野澤 洋	平成21
四本 康久	平成21
戸塚久美子	平成21
野澤 義雄	平成21
小野登志子	自民改革会議
中野 弘道	自民改革会議
赤堀佐代子	自民改革会議
石橋 康弘	自由民主党県議団
込山 正秀	自由民主党県議団
奥之山 隆	自由民主党県議団
安間 英雄	自由民主党県議団
前林孝一良	公明党静岡県議団
谷 卓宜	公明党静岡県議団



孤立した小山町柳島地区にて

前原前国土交通大臣が小山町の被災地を視察

前原前国土交通大臣は9月15日、小山町を訪れ県知事や小山町長、国土交通省、県、町職員の案内で、柳島地区などの土砂崩れや護岸決壊した現場を視察しました。

大臣は「今回は、迅速な対応で人的被害が極めて少なかった。狭い範囲、短時間に集中豪雨が降っている。避難勧告の早さが重要で、国も情報提供をしっかりとしていく」と述べました。

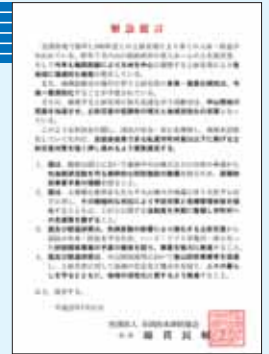
また、小山町の要請を受け、国土交通省中部地方整備局から派遣されていた緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）21人が、河川、道路の損壊箇所69箇所について現場の状況と復旧方法を報告しました。



森山交通基盤部長からの被災状況説明

緊急提言を決議

社団法人全国治水砂防協会では、砂防関係事業の現状を鑑み、平成22年7月21日に開催された理事・顧問会議において、「土砂災害を防止し、地域を活性化するための緊急提言」を決議し、直ちに国会及び政府に要望活動を行いました。



全国各地で毎年1,000件近くの土砂災害により多くの人命・財産が失われている。昨年7月の山口県防府市の老人ホームの土石流災害、そして今年も梅雨前線により九州を中心に頻発する土砂災害により各地域に壊滅的な被害が発生している。また、地球温暖化の進行に伴う土砂災害の多発・激甚化傾向は、今後一層深刻化することが予想されている。さらに、頻発する土砂災害に加え急速な少子高齢化は、中山間地の荒廃を加速させ、土砂災害の危険性の増大と地域活性化の支障となっている。

このような状況を打開し、国民の安全・安心を確保し、地域を活性化していくために、当協会会員である私達市町村長は以下に掲げる土砂災害対策を強く押し進めるよう緊急提言する。

記

1. 国は、脆弱な国土において豪雨や火山噴火などの自然の脅威から社会経済活動を守る根幹的な砂防施設の整備を図るため、直轄砂防事業予算の増額を図ること。
2. 国は大規模な被害をもたらす火山噴火や地震に伴う天然ダムなどに対し、その積極的な対応により予防対策と危機管理体制を強化するとともに、これからに関する法制度を早期に整備し市町村への支援策を講ずること。
3. 国及び都道府県は、気候変動の影響により激化する土砂災害から国民の生命・財産を守るため、ハード・ソフト対策が一本となった砂防関係事業の予算の確保を図り、事業を強力に推進すること。
4. 国及び都道府県は、中山間地域等において里山砂防事業等を促進し、土砂災害に対して流域の安定化と健全化を図り、人々の暮らしを守るとともに、地域の活性化に資するよう推進すること。

以上、緊急提言する。

平成22年7月22日

社団法人 全国治水砂防協会 会長 綿貫民輔

土砂災害警戒情報の発表状況

県と静岡地方気象台は、住民の早期避難を促進し、土砂災害による人的被害を未然に防ぐため、平成19年6月15日から土砂災害警戒情報の発表の運用を行っています。また、気象庁から送られるデータに基づいて、早急な避難を要する地域がどこかをより限定できるよう、平成20年6月1日から土砂災害警戒情報補足情報を県ホームページへ掲載しています。平成19年は3回32市町、平成20年は5回22市町、平成21年は4回15市町、平成22年は9月30日までに4回11市町に土砂災害警戒情報を発表しました。

土砂災害警戒情報の発表は、過去の土砂災害発生時の降雨状況を超えた危険な状況となっていることを意味します。市町の防災担当者は、日頃の準備と適時適切な対応をお願いします。

土砂災害警戒情報発表履歴

(平成22年9月30日現在)

	発表日時 ()は最終号数	事象	発表市町	土砂災害発生件数
①	2月27日 4時40分～ 2月27日 8時47分 (第2号)	低気圧による大雨	伊豆市(5割) (1市町1地区)	1
②	3月16日 3時25分～ 3月16日 8時25分 (第3号)	低気圧による大雨	静岡市南部(7割)、伊豆市(5割)、 焼津市(5割)、牧之原市(5割) (4市町4地区)	1
③	7月30日 2時27分～ 7月30日 7時 7分 (第2号)	低気圧による大雨	伊豆の国市 (1市町1地区)	0
④	9月 8日 9時20分～ 9月 8日 19時50分 (第6号)	台風9号	富士市、小山町、御殿場市、 富士宮市、裾野市 (5市町5地区)	40
合計			11市町11地区	42

※ ①、②は、平成21年8月11日の駿河湾の地震に伴い適用された暫定基準により発表。(暫定基準適用期間：平成21年8月11日～平成22年3月24日)

会員(市町長)による砂防視察研修

岩手・宮城県の砂防事業等視察

8月26日(木)～28日(土)に、平成20年の岩手・宮城内陸地震に伴う復旧事業を視察しました。今回の視察は両県の砂防課・土木事務所をはじめ、国の機関、栗原市、一関市の協力を得て実施したもので、原田支部長(袋井市長)を団長に16名が参加いたしました。

この視察は、毎年当協会が実施している事業で、会員(市町長)が砂防関係事業を視察することにより生きた教訓を学び、今後の事業の周知・復旧を図ろうとするものです。

平成20年6月14日8時43分に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地は、岩手県内陸南部、深さ8km、マグニチュード7.2、最大震度6強、本震及び余震は北北東～南南西方向に伸びる長さ45km、幅約15kmの範囲に広がっており、本震はほぼ、その中央付近で発生しました。死者・行方不明者・重軽傷者を含め449名(平成21年4月現在)の人的被害を出しました。



市野々原地区直轄砂防災害関連緊急事業現場にて

参加市町等

袋井市、伊豆の国市、河津町、函南町、川根本町、静岡市、浜松市、富士宮市、小山町、沼津土木事務所、静岡土木事務所、砂防課(事務局)



日程

8月26日(木)

- ・宮城県くりこま高原駅集合
- ・栗原市役所①到着後北上川下流河川事務所による天然ダム等直轄事業説明
- ・②栗原市幹部からの地震後の対応の説明と意見交換

8月27日(金)

- ・③荒戸沢ダム上流崩壊地視察
- ・④駒の湯土石流被災地視察
- ・⑤市野々原天然ダム直轄災害関連緊急砂防事業視察
- ・⑥国道342号祭時大橋の災害復旧事業施設
- ・⑦一関市幹部からの地震の対応について説明と意見交換

8月28日(土)

- ・⑧平泉町周辺の地域振興事業視察

栗原市(宮城県):地震発生後の対応や住民避難などの説明及び意見交換

柳川副市長より「平成20年9月に地震を想定した大規模訓練を予定し、訓練計画を策定中に今回の地震が発生しました。道路は閉鎖状態で救助のへりは飛んでいたが、山の被災状況は入ってこず、国やマスコミのへりからの情報のみでした。よかったのは、(栗原市の被災が最も大きい)本市の対策本部の中に総理府、国交省、林野庁、農水省等の国の機関、宮城県が栗原市の対策本部の中に組織をつくり、問題は即時対策本部で解決できたこと。」とのお話がありました。

千田建設課長より概要説明を受け、栗原市の取り組みとして、行方不明者を1年たって捜索し4名を発見したとのことでした。

その後、状況の厳しい中での栗原市の取り組みについて(国との関わりなど)活発な意見交換が行われました。



柳川副市長の挨拶



栗原市との意見交換

岩手県：一般国道342号祭時大橋 橋梁災害復旧事業視察

国道342号は、秋田県横手町から宮城県登米市に至る一般国道です。

2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震で祭時（まつるべ）大橋が倒壊するなど大きな被害ができました。地震により破壊された秋田側の地山は、橋台・橋脚を載せた状態で約11m一関側に移動しました。

国道342号は2010年5月30日正午に再開通し、祭時大橋の新橋は来年3月の完成に向けて建設工事が進められています。



地震により破壊された祭時大橋



一関土木センター小関災害復旧対策課長からの説明



一関市(岩手県)地震発生後の対応や住民避難などの説明及び意見交換

一関市田代副市長より、「地震では、甚大な被害をもたらしましたが地域の早期復旧に向けて災害復旧に取り組んできました。H22は完全復旧の年です。一関は元気だったとお伝えください。」とのお話がありました。

及川防災安全対策監より、地震直後の被害の説明や一関市の初期対応の説明などをいただき、写真を見ながらの説明に震災直後の危機迫る緊迫した様子が伝わってきました。その後、視察参加者より初動対応についての沢山の質問が出されるなど活発な意見交換が行われました。



田代副市長の挨拶



一関市との意見交換



宮城県：荒砥沢ダム上流地すべり対策地

宮城県栗原市の荒砥沢地すべりは岩手・宮城内陸地震で発生した土砂災害のうち最も大規模な地すべりで、幅約900m斜面長約1300m面積98ha滑落崖の最大落差は約150mという、現在日本で確認されている地すべりの中で最も大規模な地すべりです。不安定土砂発生量は約6700万 m^3 に達し、東京ドーム54杯分にも相当するということでした。



説明をする宮城北部森林管理署江坂宮城山地災害復旧対策室長

参加者の声

■ 視察団 団長 支部長 原田 英之(袋井市長)

今年度の市町長等砂防事業県外視察は、岩手・宮城内陸地震砂防関係事業地を視察しました。平成20年6月14日に発生した大規模な地震における災害時の対応、土砂崩れ現場や復旧状況などを視察し地震による土砂災害の恐ろしさを再確認しました。東海地震を抱える静岡県として大変勉強となる視察となりました。

視察先では栗原市、一関市、北上川下流河川事務所、岩手河川国道事務所、宮城北部森林管理署、宮城県北部土木事務所栗原地域事務所、岩手県南広域振興局、一関土木センターの皆様にご協力・御配慮をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。今回の視察で実際に見聞き体感した成果を今後の砂防事業、災害対策に役立ててまいりたいと思います。

なお、お忙しい中多くの会員の皆様に参加をいただいたこと、参加者各位の御協力により全員無事に全日程を終える事ができましたことを、心よりお礼申し上げます。

富士山の砂防

—富士山南西野溪対策—

富士山には八百八沢と呼ばれるほど多くの溪流があり（※）、特に南西斜面では気象作用による風化等で土砂生産が活発であり、これまでも、昭和47年、54年と災害に見舞われています。

その一方で山麓では土地利用が進んでいます。下流域には国道1号、東海道本線など重要交通網や田子の浦港などの社会基盤があり、事業所数では全国1位、出荷額では全国2位を誇る製紙業を始め、自動車、電機関連事業所も多く立地する工業地帯であり、想定氾濫域にはそれらを含む多くの資産を抱えています。また、周辺には富士山をはじめとする観光資源や白糸の滝など名勝が多く存在しています。

昭和44年に富士山大沢川で直轄砂防事業に着手したことに続き、南西斜面对策の直轄砂防事業としては昭和58年から着手していますが、その対策は美しい姿を誇る富士山ゆえ、以下に挙げるような難しさがあります。

- ・ 山体の形成年代が比較的新しく、谷が未発達であり砂防施設適地が少ない。
- ・ 対策地点と保全対象が離れているが、長大な斜面のため土石流の到達距離が長い。
- ・ 流下した土砂が下流の河道や港湾に堆積することによる二次的な被害が大きい。

これらに対応し、効率的な土砂整備をするため、富士砂防事務所では砂防堰堤と併せ、整備効果の高い沈砂土工を各溪流に整備するよう取り組んでいます。

これまでの災害事例



昭和47年 田子の浦港に土砂堆積



昭和54年 弓沢川流域被災状況

施設写真



須津堰堤工群



大久保沢沈砂土工



溜野沢溪流保全工

施設が効果を発揮した事例



完成直後に土石流を捕捉した風祭沈砂地(除石中の状況)



完成直後に土石流を捕捉した栗ノ木第4堰堤(H4.12)

※なお、レーザー測量の成果から標高2,000～2,500m付近の沢の地形を調査したところ、八十三筋の地形を確認出来ました。詳しくはweb をご参照下さい。

「静岡県型事業仕分け」開催される

9月4日、5日に事業の必要性や実施方法について、第三者の視点により公開の場で見直しを行う「静岡県型事業仕分け」が県の事業103事業を対象に行われました。

仕分けは、コーディネーター1人を含む6人の仕分け人により行われ、砂防関係事業では、社会資本整備交付金の急傾斜地崩壊対策事業が対象となり実施されました。

当事業の仕分け結果は、コーディネーターを除く5人の仕分け人が、県事業で実施すべきであるものの、実施方法については、改善すべきであるという評価を受けました。

仕分け人からの主な意見は、「事業は必要であるものの、実施にあたっては、コスト、効果等様々な要素を総合的に判断し、事業箇所を選定すべきである。」、「土砂災害危険箇所への建築の管理を強化すべき。」などの意見を頂きました。

県では、この結果を厳粛に受け止め、今後の事業実施にあたって、これら意見が反映されるよう努めていきたいと考えております。



事業仕分けの様子

ジオフォーラム2010静岡の開催 (主催 静岡県地質調査業協会 他)

10月1日、「ジオフォーラム2010 IN 静岡」(全国治水砂防協会静岡県支部 協賛)がグランシップ(静岡市)で開催されました。今回は、「歴史に見る地震と土砂災害」と題して、NPO法人 防災情報機構の伊藤和明会長(元NHK解説員)より特別講演があったほか、静岡県地質調査業協会会員による4つの基礎講座、3件の発表や、機器展示がありました。約350名の参加があるなど、例年以上に盛況でした。



講演の様子

事業評価監視委員会の開催

8月26日、平成22年度第3回事業評価監視委員会(第1回:6月25日、第2回:8月5日)が県庁で開催され、砂防関係事業では、再評価を1件、事後評価3件の事業を対象に行われました。

再評価では、地すべり対策事業「大滝地区(浜松市天竜区)」が実施され、「ソフト対策を併せて推進すること。」、「森林関係事業と連携すること。」等の意見を頂きましたが、「事業を継続することが相当である。」という評価を受けました。

また、事後評価では、砂防事業「神辺川(三島市)」、地すべり防止事業「崩野(静岡市葵区)」、急傾斜地崩壊対策事業「船田(松崎町)」を対象に実施され、いずれも「改善の必要性は認められない」との評価を受けました。

なお、平成23年度の事後評価対象箇所として、砂防事業「泉ヶ谷沢口沢(静岡市)」と地すべり防止事業「大時(静岡市)」が選定されました。



9月 1日 総合防災訓練
10月 13~15日 平成22年度第42回全国地すべり現地検討会(山形県上山市)

お知らせコーナー

土砂災害から人命と地域を守る砂防会議及び静岡県支部要望

【日程】平成22年11月30日(火) 11:00～
 【場所】シェーンバツハ・サボー 1階「利根」
 【要領等】詳細は、大会本部から要領が到着次第、会員の皆様に連絡させていただきます。大会終了後、静岡県支部砂防関係事業促進要望も例年どおり行う予定ですので、ご協力よろしくお願いいたします。
 【問合せ先】砂防協会静岡県支部 TEL:054-221-3042



市町等砂防事業担当職員研修 《主催：砂防協会静岡県支部》

【日程】平成22年11月11日(木)・12日(金)
 【集合】平成22年11月11日 静岡駅(9:00)・掛川駅(10:00経由)
 【研修内容】研修(土砂災害対策における市町村の役割等)
 ・場所 現地研修：平成20年9月の豪雨による被災現場他(岐阜県)
 【対象者】市町砂防担当職員、土木事務所砂防担当職員
 【申込方法】FAX受付：054-221-3564
 【問合せ先】砂防協会静岡県支部 TEL:054-221-3042



安倍川上流砂防関係事業の見学会

【実施日時】平成22年11月14日(日) 9:00～16:00 【参加定員】40名
 【交通手段】マイクロバス2台 【参加費】無料
 【実施コース】静岡駅(9:00集合)→大河内砂防堰堤→赤水の滝→大谷崩→昼食会場→急傾斜施設→静岡駅(16:00解散)
 【注意事項】●今回の見学地は大谷崩等の山間地で、急な砂利道など足場の悪い所を歩いていただきますことを御承知おき下さい。
 ●各自、身軽に動ける服装(運動靴等)、雨具の用意、昼食は弁当等持参
 【問合せ、申込み先】静岡県 砂防課 TEL:054-221-3042

土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文の応募のお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。なお、入選発表及び表彰式は平成23年3月を予定しております。



【応募状況】

部門	小学生	中学生	計
絵画	21	22	43
作文	5	45	50
合計	26	67	93

10月 14～16日 2010火山砂防フォーラム(群馬県)
 19日 東海地区土砂災害防止法担当者会議(岐阜市)
 20日 第4回防災担当者のための土砂災害実務講習会(砂防会館)
 21～22日 全国地すべり・がけ崩れ対策協議会研究発表会(栃木県内)
 27～28日 (社)砂防学会シンポジウム(山口県防府市)
 11月 11～12日 市町等砂防担当職員研修 ※詳細は上記をご覧ください
 15日 東海地区直轄事務所長・砂防課長会議(名古屋市)
 18～19日 全国地すべり・がけ崩れ対策協議会理事会(静岡市)
 土砂災害防止ワーキング会議(砂防会館)
 29日 砂防協会参与会 全国砂防主管課長会議(砂防会館他)
 30日 土砂災害から人命と地域を守る砂防会議及び静岡県支部要望 ※詳細は上記をご覧ください

【表紙写真】
晩秋の爽り (撮影地：富士宮市)
 牧野 士郎さん(裾野市)
 ※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の富士山の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集後記

8月26日～28日に行われた、市町長等砂防関係事業県外視察に今回初めて同行させていただきました。岩手・宮城内陸地震の災害現場や実際に見ても信じられないほどの大規模な土砂災害現場を目の当たりにし地震や土砂災害の恐ろしさを実感しました。静岡県でも東海大地震が想定されている為、今回の視察で見聞きしたことは今後の地震対策、砂防事業の推進に大いに活用できるものとなりました。
 なお、ご多忙中にも関わらず多数の会員の皆様にご出席をいただき無事視察を終えることができましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke350/index.html>



第171号 発行日：平成22年10月15日
 編集・発行：全国治水砂防協会 静岡県支部
 〒420-8601 静岡県葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
 TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp